

令和6年度 全国学力・学習状況調査について

羽島郡二町教育委員会

1 はじめに

全国学力・学習状況調査は、本年度も、小学校6年生、中学校3年生及び学校を対象として、4月18日(木)に実施しました。その結果についての報告と保護者の皆様に協力をお願いしたいことをまとめました。

調査は「教科に関する調査」、「児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査」、「学校を対象とした学校質問紙調査」の3種類の調査が行われました。

なお、今回お知らせする結果は、学力や学習状況の一部であり、子供たちの学力や学習状況、学校の教育活動などのすべてを表すものではありません。

2 調査内容

(1)教科に関する調査

小学校6年生は5年生までの学習内容、中学校3年生は2年生までの学習内容から出題されました。

□実施された科目と内容

国語、算数・数学

- ①身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容や、実生活において不可欠であり常に活用できるようになっていることが望ましい知識・技能 等
- ②知識・技能を実生活の様々な場面に活用する力や、様々な課題解決のための構想を立て実践評価・改善する力 等

※問題数

小学校国語:14問 小学校算数:16問
中学校国語:15問 中学校数学:16問

(2)児童生徒を対象とした児童生徒質問紙調査

◇学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

(例)読書時間、家庭学習の状況、授業内容の理解度、ICT機器の活用、生活習慣 など

(3)学校を対象とした学校質問紙調査

◇指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査

(例)授業の改善に関する取組、指導方法の工夫、学校運営に関する取組、家庭・地域との連携の状況 など

3 教科に関する調査結果から

【国語】

	身につけている内容	課題のある内容
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 目的や意図に応じて、日常生活の中から話題を決め、伝え合う内容を検討する。 話し言葉と書き言葉の違いに気付く。 資料を活用するなどして、自分の考えが伝わるように表現を工夫する。 人物像を具体的に想像する。 	<ul style="list-style-type: none"> 学年別漢字配当表に示されている漢字を、文の中で正しく使う。 文の中における主語と述語との関係を捉える。 目的や意図に応じて、集めた材料を分類したり、関係付けたりして、伝えたいことを明確にする。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 話合いの話題や展開を捉えながら、他者の発言と結び付けて自分の考えをまとめる。 表現の効果を考えて描写するなど、自分の考えが伝わる文書になるように工夫する。 意見と根拠など情報と情報との関係について理解している。 	<ul style="list-style-type: none"> 必要に応じて質問しながら話の内容を捉える。 具体と抽象など情報と情報との関係について理解している。

【算数・数学】

	身につけている内容	課題のある内容
小学校	<ul style="list-style-type: none"> 角柱の底面や側面に着目し、五角柱の面の数とその理由を言葉と数を用いて記述する。 速さが一定であることを基に、道のりと時間の関係について考察する。 道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述する。 必要なデータを取り出して、落ちや重なりがないように分類整理する。 	<ul style="list-style-type: none"> 問題場面の数量の関係を捉え、式に表す。 計算に関して成り立つ性質を活用して、計算の仕方を考察し、求め方と答えを式や言葉を用いて記述する。 球の直径の長さや立方体の一辺の長さの関係を捉え、立方体の体積の求め方を式に表す。
中学校	<ul style="list-style-type: none"> 等式を目的に応じて変形する。 目的に応じて式を変形したり、その意味を読み取ったりして、事柄が成り立つ理由を説明する。 統一的・発展的に考え、成り立つ事柄を見出し、数学的な表現を用いて説明する。 	<ul style="list-style-type: none"> 筋道を立てて考え、証明する。

4 質問紙調査結果から

- ・小学校では、各教科・特別活動の授業の中で、自分で考え、まとめ、発表すること、友達と話し合っ
て発表することができる児童が増えています。
- ・中学校では、自分で計画を立てて学習すること、平日も休日も家庭学習に取り組むことがで
きる生徒が多くなります。
- ・小・中ともに、「人が困っているときは、進んで助ける」と行動に移している児童・生徒がたくさ
んいます。
- ・小・中ともに、令和5年度と比較すると、「幸福感」を感じている児童生徒が高まっています。
- ・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだ」と考える児童・生徒は多くなります。
- ・「自分には、よいところがある」という質問に足して、肯定的な回答をした児童・生徒の割合は、
全国平均と比較すると、小・中ともに減少しています。

5 学力向上に向けての羽島郡二町内の小中学校の取組

羽島郡内の小中学校では、学力の向上を目指して、次の二点について取り組んでいます。

- (1)授業では、「羽島郡『授業マニフェスト4』」に取り組んでいます。また、前期末と後期末に、
これらの取組状況について教師が自己評価をし、改善に役立てます。
 - ・授業はチャイムで始め、チャイムで終わります。
 - ・学習の見通しをもち、子供同士で考えを深め合う場をつくります。
 - ・考えたことや分かったこと、疑問に思ったことなどについて振り返る場をつくります。
 - ・授業の最後に子供のよいところをほめます。
- (2)各校の実態に応じて、毎年「指導改善プラン」を作成し、各校にて下記の内容について工
夫して取り組んでいます。
 - ・「A校内研究」、「B補充」（基礎・基本の定着）、「C家庭学習」、「D個別最適な学び」、
「E協働的な学び」、「F授業マニフェスト4」「G 学力向上推進会議・学力向上委員会」

6 保護者の皆様へ

◇子供はほめられて育ちます

子供をほめるときには、家庭での過ごし方の約束を作ることが大切になります。家庭学習
の時間、家族の一員としての役割、スマホやパソコン(タブレット)の使い方などについて約
束を決めて、必ずやりきらせてほめましょう。「時間やルールを守る生活をするとういことがあ
る」と、子供たちが実感できるようにしたいです。そのために、やりきってほめられる生活サイ
クルを確立させましょう。

◇いつも成長の願いをもって見守ってください。

子供に対して成長の願いをもって見守っていると、小さな成長や成果にも気が付くようにな
ります。また、結果には表れなかったことでも、努力した過程を認めることができます。そう
することで、期待に応えようとする前向きな心や自己肯定感が育ちます。

子供には無限の可能性が秘められています。どの子もよりよく生きたいという願いをもって
います。その可能性や願いを最大限に引き出し、前を向いて、素直に歩む子供になるよう育
てていきたいと思います。